

本書の構成

- ◎本書は、令和5年から過去8年間に実施された甲種危険物取扱者試験の問題とそのテキスト及び解説をまとめたものです。
- ◎過去問題は、実際の試験科目と同様に大きく3つの章に分け、更に細かく項目を分けました。具体的には次のとおりです。
- ①第1章 危険物に関する法令…………… 45項目
 - ②第2章 物理学・化学…………… 35項目
 - ③第3章 危険物の性質・火災予防・消火の方法…………… 17項目
- ◎各項目のはじめに、その項目に分類される過去問題を解くために知っておくべき必要最低限の内容をテキストとしてまとめてあります。
- ◎また、過去問題の後に「正解&解説」として、小社による正解と、その問題文がなぜ誤っている内容であるのか等をまとめました。
- ◎過去の問題を整理・分類していくと、ほぼ同じ問題が多数あります。
本書では、①新問、②「ほぼ同じ問題」を1つにまとめた問題、③今後出題される可能性が高いと考えられる問題、をまとめて収録しています。この結果、本書の収録問題は749問となっています。なお、甲種1回分の試験問題は、合計45問です。
- ◎問題の最後に付いている【★】マークは、出題頻度が高い問題であることを表しています。また、【編】は、2つの類似問題を編集部で1つの問題にまとめたものであることを表しています。
- ◎甲種に限らず、危険物取扱者試験の問題は公表されていません。小社では、複数の受験者に依頼して過去問題を組み立てました。従って、記述のしかたが実際の試験と一部異なっている場合もあります。
- ◎項目ごとにまとまっているので頭の中で整理しやすく、「覚える」⇒「問題を解く」⇒「正解・解説を確認する」⇒「覚える」を繰り返すことで、意識せずに覚え、解くことができます。また、何度もチャレンジすることで、試験合格が可能となります。
- ◎過去問題ごとに、チェックマーク（☑）をつけています。その問題を理解できているか、記憶できているか、その確認にご利用ください。

令和6年1月 公論出版 編集部

受験の手引き

■甲種危険物取扱者

- ◎消防法により、一定数量以上の危険物を貯蔵し、または取り扱う化学工場、ガソリンスタンド、石油貯蔵タンク、タンクローリー等の施設には、危険物を取り扱うために必ず危険物取扱者を配置しなくてはなりません。
- ◎危険物取扱者の免状は、貯蔵し、または取り扱うことができる危険物の種類によって、甲種、乙種、丙種に分かれています。
- ◎このうち甲種は、全ての危険物を貯蔵し、または取り扱うことができます。
- ◎甲種の受験にあたり、いくつかの資格が必要となります。例えば、次の4種類以上の乙種危険物取扱者免状の交付を受けている者は、受験資格があります。

第1類 または 第6類

第2類 または 第4類

第3類

第5類

■試験科目と合格基準

- ◎試験は、次の3科目について一括して行われます。試験の制限時間は2時間30分です。

試験科目	問題数
危険物に関する法令（法令）	15問
物理学及び化学（物化）	10問
危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法（性消）	20問

- ◎合格基準は、試験科目ごとの成績が、それぞれ60%以上としています。従って、「危険物に関する法令」は9問以上、「物理学及び化学」は6問以上、「危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法」は12問以上正解しなくてはなりません。従って、例えば法令の正解が8問である場合、その他の科目がたとえ満点であっても、不合格となります。

■受験の手続き

- ◎危険物取扱者試験は、一般財団法人 消防試験研究センターが実施します。ただし、受験願書の受付や試験会場の運営等は、各都道府県に設けられているセンターの支部が担当します。
- ◎受験の申請は書面によるほか、インターネットから行う電子申請が利用できます。
- ◎電子申請は、一般財団法人 消防試験研究センターのホームページにアクセスして行います。

<input type="checkbox"/>	1. 消防法の法体系	5
<input type="checkbox"/>	2. 法令で定める危険物	6
<input type="checkbox"/>	3. 第4類の危険物の品名	14
<input type="checkbox"/>	4. 危険物の指定数量	17
<input type="checkbox"/>	5. 製造所等の区分	24
<input type="checkbox"/>	6. 製造所等の設置と変更の許可	28
<input type="checkbox"/>	7. 完成検査と仮使用	32
<input type="checkbox"/>	8. 完成検査前検査	35
<input type="checkbox"/>	9. 製造所等の変更の届出	37
<input type="checkbox"/>	10. 危険物取扱者の制度	40
<input type="checkbox"/>	11. 免状	44
<input type="checkbox"/>	12. 保安講習	47
<input type="checkbox"/>	13. 危険物保安監督者	53
<input type="checkbox"/>	14. 危険物施設保安員	57
<input type="checkbox"/>	15. 予防規程	60
<input type="checkbox"/>	16. 予防規程に定める事項	64
<input type="checkbox"/>	17. 定期点検	66
<input type="checkbox"/>	18. 保安検査	74
<input type="checkbox"/>	19. 保安距離	76
<input type="checkbox"/>	20. 保有空地	80
<input type="checkbox"/>	21. 製造所の基準	84
<input type="checkbox"/>	22. 屋内貯蔵所の基準	87
<input type="checkbox"/>	23. 屋外タンク貯蔵所の基準	89
<input type="checkbox"/>	24. 屋内タンク貯蔵所の基準	91
<input type="checkbox"/>	25. 地下タンク貯蔵所の基準	93
<input type="checkbox"/>	26. 簡易タンク貯蔵所の基準	96
<input type="checkbox"/>	27. 移動タンク貯蔵所の基準	98
<input type="checkbox"/>	28. 屋外貯蔵所の基準	102
<input type="checkbox"/>	29. 給油取扱所の基準	105
<input type="checkbox"/>	30. 屋内給油取扱所の基準	112

<input type="checkbox"/>	31. セルフスタンドの基準	114
<input type="checkbox"/>	32. 販売取扱所の基準	117
<input type="checkbox"/>	33. 一般取扱所の基準	120
<input type="checkbox"/>	34. 標識・掲示板	123
<input type="checkbox"/>	35. 移動タンク貯蔵所における取扱い	125
<input type="checkbox"/>	36. 貯蔵・取扱いの基準	131
<input type="checkbox"/>	37. 運搬の基準	140
<input type="checkbox"/>	38. 製造・詰替・消費及び廃棄の基準	151
<input type="checkbox"/>	39. 消火設備	153
<input type="checkbox"/>	40. 消火設備の設置基準	158
<input type="checkbox"/>	41. 消火設備の火災ごとの適応	162
<input type="checkbox"/>	42. 警報設備	164
<input type="checkbox"/>	43. 措置命令等	167
<input type="checkbox"/>	44. 許可の取消し・使用停止命令	170
<input type="checkbox"/>	45. 事故時の措置	175

3 第4類の危険物の品名

■ 第4類の危険物の分類

◎消防法別表第1の備考11～17では、第4類・引火性液体の品名をそれぞれ次のように定義している。

備考11. **特殊引火物**とは、ジエチルエーテル、二硫化炭素その他1気圧において、**発火点が100℃以下**のもの、または引火点が**-20℃以下**で沸点が40℃以下のものをいう。

備考12. **第1石油類**とは、アセトン、ガソリンその他1気圧において引火点が**21℃未満**のものをいう。

備考13. **アルコール類**とは、1分子を構成する炭素の原子の数が**1個から3個までの飽和1価アルコール**（変性アルコールを含む。）をいい、組成等を勘案して総務省令で定めるものを除く。

備考14. **第2石油類**とは、灯油、軽油その他1気圧において引火点が**21℃以上70℃未満**のものをいい、塗料類その他の物品であって、組成等を勘案して総務省令で定めるものを除く。

備考15. **第3石油類**とは、重油、クレオソート油その他1気圧において引火点が**70℃以上200℃未満**のものをいい、塗料類その他の物品であって、組成を勘案して総務省令で定めるものを除く。

備考16. **第4石油類**とは、ギヤー油、シリンダー油その他1気圧において引火点が**200℃以上250℃未満**のものをいい、塗料類その他の物品であって、組成を勘案して総務省令で定めるものを除く。

備考17. **動植物油類**とは、動物の脂肉等または植物の種子もしくは果肉から抽出したものであって、1気圧において引火点が**250℃未満**のものをいい、総務省令で定めるところにより貯蔵保管されているものを除く。

◎引火点に注目すると、「-20℃」「21℃」「70℃」「200℃」「250℃」は、暗記しておく必要がある。

▶▶▶ 過去問題 ◀◀◀

【問1】屋外貯蔵タンクに第4類の危険物が貯蔵されている。この危険物の性状は、非水溶性液体、1気圧において引火点24.5℃、沸点136.2℃、発火点432℃である。法令上、この危険物に該当する品名は、次のうちどれか。【★】

1. 特殊引火物 2. 第1石油類 3. アルコール類
4. 第2石油類 5. 第3石油類

【問6】 法別表第1で定める動植物油類について、次の文の（ ）内のA、Bに当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。

「動植物油類とは、動物の脂肉等又は植物の種子若しくは果肉から抽出したものであって、1気圧において（A）が（B）未満のものをいい、総務省令で定めるところにより貯蔵保管されているものを除く。」

(A) (B)

- 1. 引火点 200℃
- 2. 引火点 250℃
- 3. 引火点 300℃
- 4. 発火点 250℃
- 5. 発火点 300℃

■ 正解&解説

問1…正解4

4. 非水溶性液体で引火点が21℃以上70℃未満の範囲にあるため、この危険物は第2石油類である。

問2…正解1

- 2 & 5. クレオソート油、重油は第3石油類に該当する。
- 3. ガソリンは第1石油類に該当する。
- 4. 軽油は第2石油類に該当する。

問3…正解2

問4…正解5

- 2. 2-プロパノール (C_3H_8O) はプロパン (C_3H_8) の水素が1つヒドロキシ基に置き換わった構造を持つアルコールである。炭素原子を3個持つため「アルコール類」に該当する。
- 3. 変性アルコールとは、飲食用への転用を防止する目的で、変性剤が添加されたエタノールをいう。
- 5. ヘキサノール ($C_6H_{14}O$) は直鎖状のヘキサン (C_6H_{14}) の水素が1つヒドロキシ基に置き換わった構造を持つアルコールで、各種の異性体がある。炭素原子を6個持つため、消防法でいう「アルコール類」には該当せず、「第2石油類」に該当する。

問5…正解4

法別表第1備考10。

問6…正解2

<input type="checkbox"/>	1. 燃焼の化学	178
<input type="checkbox"/>	2. 燃焼の区分	185
<input type="checkbox"/>	3. 比表面積	189
<input type="checkbox"/>	4. 化学反応式 [I]	191
<input type="checkbox"/>	5. 化学反応式 [II]	198
<input type="checkbox"/>	6. 燃焼範囲	199
<input type="checkbox"/>	7. 主な引火性液体の性状	201
<input type="checkbox"/>	8. 混合ガスの燃焼下限界	205
<input type="checkbox"/>	9. 自然発火と粉じん爆発	207
<input type="checkbox"/>	10. 消火剤と消火効果	212
<input type="checkbox"/>	11. 静電気	224
<input type="checkbox"/>	12. 化学の基礎	233
<input type="checkbox"/>	13. 物質の三態	238
<input type="checkbox"/>	14. 単体・化合物・混合物	244
<input type="checkbox"/>	15. コロイド	246
<input type="checkbox"/>	16. 同素体と異性体	250
<input type="checkbox"/>	17. 金属の特性	252
<input type="checkbox"/>	18. 気体の特性	258
<input type="checkbox"/>	19. 溶液の濃度と溶解	260
<input type="checkbox"/>	20. 熱化学方程式	263
<input type="checkbox"/>	21. pH (水素イオン指数)	268
<input type="checkbox"/>	22. 酸・塩基・中和	273
<input type="checkbox"/>	23. 金属のイオン化列	279
<input type="checkbox"/>	24. 元素の周期表	281
<input type="checkbox"/>	25. 金属の腐食	283
<input type="checkbox"/>	26. 電池	287
<input type="checkbox"/>	27. 酸化還元反応	293
<input type="checkbox"/>	28. 反応速度と触媒	296
<input type="checkbox"/>	29. 化学平衡	300
<input type="checkbox"/>	30. 気体の種類	304
<input type="checkbox"/>	31. 有機化合物の基礎	308
<input type="checkbox"/>	32. 脂肪族化合物	316
<input type="checkbox"/>	33. 芳香族化合物	327
<input type="checkbox"/>	34. 有機化合物の分離操作	332
<input type="checkbox"/>	35. 高分子材料	334

2 燃焼の区分

■ 気体の燃焼

- ◎可燃物を気体、液体、固体に区分すると、それぞれに応じた方法で燃焼する。
- ◎可燃性ガスは、空気とある濃度範囲で混合していないと燃焼しない。燃焼可能な濃度範囲を燃焼範囲という。
- ◎燃焼範囲内の可燃性ガスをつくるには、あらかじめ可燃性ガスと空気とを混合させておく方法と、燃焼の際に可燃性ガスを拡散させ空気と混合させる方法とがある。前者の方法による燃焼を予混合燃焼^{よこんごう}といい、後者の方法による燃焼を拡散燃焼という。
- ◎予混合燃焼では、炎が速やかに伝播して燃え尽きる。ただし、部屋などの空間に密閉されていると、温度及び圧力が急上昇して爆発を起こすことがある。また、拡散燃焼では可燃性ガスが連続的に供給されると、定常的な炎を出す燃焼となる。

■ 液体の燃焼

- ◎アルコールやガソリンなどの可燃性液体は、それ自身が燃えるのではなく、液体の蒸発によって生じた蒸気が着火して火炎を生じ、燃焼する。これを蒸発燃焼という。
- ◎従って、可燃性液体の取扱いの際には、蒸気の漏洩や滞留に充分注意しなければならない。

■ 固体の燃焼

- ◎固体の燃焼は、表面燃焼、蒸発燃焼、分解燃焼に分類できる。
- ◎表面燃焼は、可燃性固体が熱分解や蒸発を起こさず、固体のまま空気と接触している表面が直接燃焼するものである。木炭、コークス、金属粉などの燃焼が該当する。
※コークスとは、石炭を高温で乾留（蒸し焼き）し、揮発分を除いた灰黒色で多孔質の固体。炭素を70～90%含む。点火しにくい。火をつければ無炎燃焼し、火力が強い。
- ◎蒸発燃焼は、可燃性固体を加熱したときに熱分解を起こさず、蒸発（昇華）した蒸気が燃焼するものである。硫黄、ナフタレンなどの燃焼が該当する。
- ◎分解燃焼は、可燃性固体が加熱されて熱分解を起こし、可燃性ガスを発生させてそれが燃焼するものである。木材、石炭、紙、プラスチックなどの燃焼が該当する。
- ◎自己燃焼は、分解燃焼のうち可燃性固体が内部に保有している酸素によって燃焼するものである。加熱・衝撃・摩擦等で爆発的に燃焼する。内部燃焼ともいう。ニトロセルロース、セルロイド、第5類の危険物などが該当する。
※ニトロセルロースとは、セルロースの硝酸エステル。セルロースは分子式 $(C_6H_{10}O_5)_n$ で表される鎖状高分子化合物である。ニトロ化で $-NO_2$ が化合する。硝化度の高いものは火薬、硝化度の低いものはフィルムなどとして使用する。

【問1】 次のA～Eに掲げる物質とその主な燃焼形態について、正しいものの組み合わせはどれか。[★]

- A. コークス、硫黄…………… 表面燃焼
- B. なたね油、木炭…………… 蒸発燃焼
- C. 硫黄、アセトアルデヒド…………… 蒸発燃焼
- D. 木材、プラスチック…………… 分解燃焼
- E. ニトロセルロース、アセトン… 自己燃焼

1. AとB 2. BとC 3. CとD 4. DとE 5. AとE

【問2】 次の物質とその通常の燃焼形態の組み合わせとして、誤っているものを2つ選びなさい。[編] [★]

- 1. ガソリン、メタノール…………… 蒸発燃焼
- 2. 硫黄、固形アルコール…………… 蒸発燃焼
- 3. 石炭、ニトロセルロース…………… 表面燃焼
- 4. ポリエステル、ポリスチレン… 分解燃焼
- 5. 木材、紙…………… 分解燃焼
- 6. 鉄粉、コークス…………… 表面燃焼
- 7. 木炭、天然ガス…………… 分解燃焼

【問3】 物質とその通常の燃焼形態の組み合わせとして、次のうち誤っているものはどれか。

- 1. 固形アルコール…………… 表面燃焼
- 2. 木材…………… 分解燃焼
- 3. コークス…………… 表面燃焼
- 4. ニトロセルロース…………… 自己燃焼 (内部燃焼)
- 5. ナフタレン…………… 蒸発燃焼

【問4】 燃焼に関する一般的説明について、次のうち正しいものはどれか。[★]

- 1. 可燃性液体でも表面燃焼するものがある。
 - 2. 固体の燃焼はすべて分解燃焼である。
 - 3. すべての可燃物は、完全燃焼すると必ず二酸化炭素を発生する。
 - 4. 表面燃焼とは、可燃性の物質の表面で熱分解や蒸発が起これ燃焼することをいう。
 - 5. 分解燃焼のうち、その物質が含有する酸素により燃焼するものを自己燃焼と
- いう。

■ 正解&解説

問1…正解3

- | | | | |
|-------------|------|----------|------|
| A. コークス | 表面燃焼 | 硫黄 | 蒸発燃焼 |
| B. なたね油 | 蒸発燃焼 | 木炭 | 表面燃焼 |
| C. 硫黄 | 蒸発燃焼 | アセトアルデヒド | 蒸発燃焼 |
| D. 木材 | 分解燃焼 | プラスチック | 分解燃焼 |
| E. ニトロセルロース | 自己燃焼 | アセトン | 蒸発燃焼 |

問2…正解3&7

- 石炭…分解燃焼 ニトロセルロース ……自己燃焼
- 木炭…表面燃焼 天然ガス ……気体の燃焼

問3…正解1

- 固形アルコールは、固体から蒸発した蒸気が燃焼するため蒸発燃焼である。

問4…正解5

- 液体の燃焼は、蒸発燃焼である。
- 固体の燃焼には分解燃焼の他、表面燃焼、蒸発燃焼がある。
- 可燃物は、完全燃焼すると全て二酸化炭素 CO_2 を発生するわけではない。炭素を含まない可燃物は、二酸化炭素を発生しない。
- 表面燃焼とは、可燃性の物質の表面で熱分解や蒸発が起こらず、そのまま空気と接触している表面が直接燃焼することをいう。

問5…正解5

- ガスこんろでは、可燃性ガスと空気（酸素）をあらかじめ混合し、これを火口から噴き出して燃焼させている。予混合燃焼は、安定した火炎をつくりやすい。
- 黄リン及びナフタレンは蒸発燃焼である。

問6…正解4

- アセチレンやエチレン等は、たとえ空気等の支燃性（助燃性）ガスが存在せず、単一成分であっても火花、加熱、衝撃、摩擦などにより分解爆発を起こす。予混合燃焼には該当しない。

問7…正解1

- ガソリン、軽油などの可燃性液体は、それ自身が燃えるのではなく、液体の蒸発によって生じた蒸気に着火して火炎を生じ、燃焼する蒸発燃焼である。

- 1. 危険物の一覧…………… 340
- 2. 危険物の類ごとの性状…………… 345
- 3. 危険物の類ごとの消火方法…………… 350
- 4. 第1類危険物の共通の事項…………… 352
- 5. 第1類危険物の品名ごとの事項…………… 358
- 6. 第2類危険物の共通の事項…………… 380
- 7. 第2類危険物の品名ごとの事項…………… 385
- 8. 第3類危険物の共通の事項…………… 401
- 9. 第3類危険物の品名ごとの事項…………… 407
- 10. 第4類危険物の共通の事項…………… 429
- 11. 第4類危険物の品名ごとの事項…………… 434
- 12. 第5類危険物の共通の事項…………… 462
- 13. 第5類危険物の品名ごとの事項…………… 468
- 14. 第6類危険物の共通の事項…………… 490
- 15. 第6類危険物の品名ごとの事項…………… 495
- 16. 混合危険…………… 508
- 17. 事故事例と対策…………… 515

問題の文章についてのご注意

現在、実際の試験において、「危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法」で出題される問題の文章が変更されています。

(本書では第3章に掲載の問題)

例 「～次のうち正しいものはどれか。」



「～次のうち妥当なものはどれか。」

例 「～次のうち誤っているものはどれか。」



「～次のうち妥当でないものはどれか。」等

本書では、「正しいもの」「誤っているもの」という記載をそのまま使用しているものがありますが、実際の試験では、変更されている場合がありますのでご注意ください (編集部)。

2 危険物の類ごとの性状

■ 第1類～第6類の性質と危険性

類別	性質（燃焼性）	状態	主な性質と危険性
第1類	酸化性固体 （不燃性）	固体	<ul style="list-style-type: none"> ①比重は1より大きい。 ②衝撃や摩擦に不安定である。 ③酸化性が強く、他の物質を強く酸化させる。可燃物との接触・混合は爆発の危険性がある。 ④物質そのものは燃焼しない（不燃性）。 ⑤多量の酸素を含有しており、加熱すると分解して酸素を放出する。 ⑥多くは無色または白色である。
第2類	可燃性固体 （可燃性）	固体	<ul style="list-style-type: none"> ①酸化されやすい（燃えやすい）。 ②火災により着火しやすい、または比較的低温（40℃未満）で引火しやすい。 ③引火性固体（固形アルコールなど）の燃焼は主に蒸発燃焼である。 ④一般に比重は1より大きく、水に溶けない。
第3類	自然発火性物質 及び禁水性物質 （可燃性、一部不燃性）	固体 液体	<ul style="list-style-type: none"> ①空気にさらされると自然発火するものがある。 ②水と接触すると発火または可燃性ガスを発生するものがある。 ③多くは、自然発火性と禁水性の両方の性質をもつ。（例外として、リチウムは禁水性、黄リンは自然発火性のみの性質をもつ） ④多くは、金属または金属を含む化合物である。
第4類	引火性液体 （可燃性）	液体	<ul style="list-style-type: none"> ①引火性があり、蒸気を発生させ引火や爆発のおそれのあるものがある。 ②蒸気比重は1より大きく、蒸気は低所に滞留する。 ③多くは液比重が1より小さく、水に溶けないものが多い。 ④非水溶性のものは電気の不良導体のため静電気を蓄積しやすい。
第5類	自己反応性物質 （可燃性）	固体 液体	<ul style="list-style-type: none"> ①比重は1より大きい。 ②内部（自己）燃焼する物質が多い。 ③加熱すると爆発的に燃焼する（燃焼速度が速い）。 ④多くが分子内に酸素を含有しており、酸素がなくても自身で酸素を出して自己燃焼する。

第 6 類	酸化性液体 (不燃性)	液体	①比重は1より大きい。 ②物質そのものは燃焼しない(不燃性)。 ③他の物質を強く酸化させる(強酸化剤)。 ④ 酸素を分離して他の燃焼を助けるものがある。 ⑤多くは腐食性があり、蒸気は有毒。
-------------	-----------------------	----	---

▶▶▶ 過去問題 ◀◀◀

【問1】 危険物の類ごとの一般的性状について、次のうち正しいものはどれか。[★]

1. 第1類の危険物は、酸化性の液体または固体で、分子中に他の物質を酸化する酸素を含有し、周囲の可燃物の燃焼を促進する。
2. 第2類の危険物は、自己反応性物質で、比較的低い温度で分解し、爆発的に燃焼する。
3. 第3類の危険物は、禁水性または自然発火性もしくは両方の性質がある。
4. 第5類の危険物は、引火性の固体で、比較的低温で引火し、燃焼速度が大きい物質である。
5. 第6類の危険物は、還元性の液体であるが、加熱、衝撃、摩擦により爆発的に燃焼する。

【問2】 危険物の類ごとの一般的性状について、次のうち正しいものはどれか。

1. 第1類の危険物は、いずれも水によく溶ける。
2. 第2類の危険物は、いずれも引火点が40℃以上の可燃性の固体である。
3. 第3類の危険物は、いずれも水と接触して可燃性ガスを発生する。
4. 第4類の危険物は、いずれも引火性の液体であり、分子内に水素を含まないものがある。
5. 第5類の危険物は、いずれも固体の可燃物で、分子内に酸素を含む。

【問3】 危険物の類ごとの一般的性状について、次のうち正しいものはどれか。

1. 第1類の危険物は、不燃性の液体で、有機物と混ざるとこれを酸化し、着火させることがある。
2. 第2類の危険物は、引火性の液体で、液体から発生する蒸気は低所に滞留する。
3. 第3類の危険物は、固体または液体で、水に接触すると発火するものがある。
4. 第4類の危険物は、可燃性の固体で、低引火点のものがある。
5. 第6類の危険物は、酸化性の固体で、周囲の可燃物の燃焼を促進するものがある。

【問8】 危険物の性状等について、次のうち正しいものはどれか。

1. 同一の物質であっても、形状及び粒度によって危険物となるものとならないものがある。
2. 引火性液体の燃焼は蒸発燃焼であるが、引火性固体の燃焼は分解燃焼である。
3. 液体の危険物の比重は1より小さいが、固体の危険物の比重はすべて1より大きい。
4. 保護液として、水、二硫化炭素またはメタノールを使用するものがある。
5. 同一類の危険物に対する適応消火剤及び消火方法は同じである。

■ 正解&解説.....

問1…正解3

1. 第1類の危険物は、酸化性の固体であり、液体は含まない。
2. 第2類の危険物は、可燃性の固体である。自己反応性物質は、第5類の危険物である。
4. 第5類の危険物は、自己反応性物質であり、固体のものと液体のものがある。
5. 第6類の危険物は、酸化性の液体であり、そのものは不燃性である。

問2…正解4

1. 第1類の危険物の中には、水に溶けにくいものや非水溶性のものもある。
2. 第2類の危険物の引火性固体は「固形アルコールその他1気圧において引火点40℃未満のもの」と定められている。「7. 第2類危険物の品名ごとの事項 ■引火性固体」390P参照。
3. 第3類の危険物の多くは禁水性を示すが、黄リンP4は禁水性を示さず水中に貯蔵される。
4. 第4類の危険物の二硫化炭素CS₂などは水素Hを含まない。
5. 第5類の危険物には液体のものと固体のものがあり、分子内に酸素を含まないものもある。

問3…正解3

1. 第1類の危険物は、不燃性の酸化性固体である。
2. 第2類の危険物は、可燃性の固体である。
4. 第4類の危険物は、引火性の液体である。
5. 第6類の危険物は、酸化性の液体である。

問4…正解4

1. 第1類の危険物は、不燃性の酸化性固体である。
2. 第2類の危険物は、可燃性の固体である。
3. 第3類の危険物は、空気や水に接触することで自然発火するものがある。
5. 第6類の危険物のうち、ハロゲン間化合物は酸素を含有していない。

書籍の訂正について

本書の記載内容について正誤が発生した場合は、弊社ホームページに正誤情報を掲載しています。

株式会社公論出版 ホームページ

書籍サポート/訂正

URL : https://kouronpub.com/book_correction.html



本書籍に関するお問い合わせ

メール



専用お問合せフォーム



FAX



03-3837-5740

必要事項

- ・お客様の氏名とフリガナ
- ・FAX 番号 (FAX の場合のみ)
- ・書籍名 ・該当ページ数 ・問合せ内容

※お問い合わせは、**本書の内容に限り**ます。下記のようなご質問にはお答えできません。

- 例・実際に出た試験問題について
- ・書籍の内容を大きく超える質問
- ・個人指導に相当するような質問
- ・旧年版の書籍に関する質問 等

また、回答までにお時間をいただく場合がございます。ご了承ください。

なお、**電話でのお問い合わせは受け付けておりません**。

甲種危険物取扱者試験 令和6年版

令和5年から過去8年間に出题された749問収録

■発行所 株式会社 公論出版
〒110-0005
東京都台東区上野3-1-8
TEL. 03-3837-5731
FAX. 03-3837-5740

■発行日 2024年(令和6年)1月20日 初版

■定価 2,970円 ■送料 400円(共に税込)

ISBN978-4-86275-267-3